

玄海原子力発電所 3号炉
高経年化技術評価（30年目）に係る
原子炉施設保安規定変更認可申請
（審査会合における指摘事項の回答）

2023年10月16日
九州電力株式会社

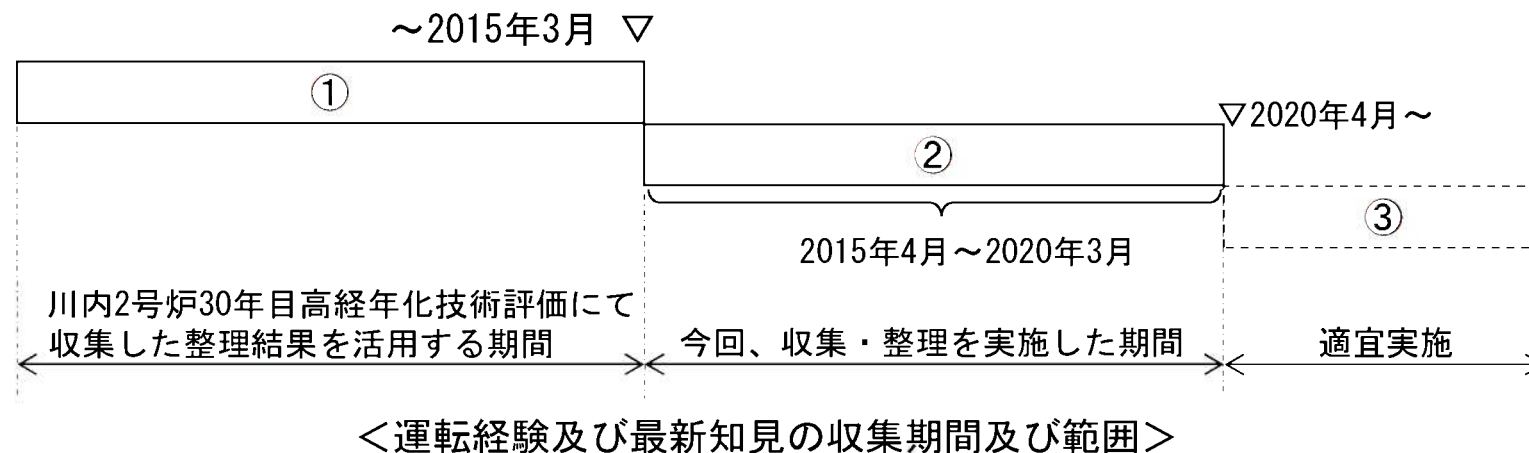
No	日時	指摘事項の内容	回答
1	2023年 4月20日	最新知見の収集・反映プロセスに関して、情報をどのように集めて評価し、インプットしているのかプロセスを説明すること。	p. 2, 3
2	2023年 4月20日	低サイクル疲労の実績過渡回数の収集期間の考え方、及び2019年4月～2020年3月に特異な過渡がなかったかについて説明すること。	個別事象の審査会合にて説明。 (審査会合資料「低サイクル疲労」スライドp.8参照)
3	2023年 4月20日	ループ室内布設の難燃PHケーブルに対して、負荷と保守管理方針を説明すること。	個別事象の審査会合にて説明。 (審査会合資料「絶縁低下」スライドp.25参照)
4	2023年 4月20日	新規制基準以降に建設されたコンクリート構造物のアルカリ骨材反応(急速膨張)について、実施した試験と結果を説明すること。	個別事象の審査会合にて説明。 (審査会合資料「コンクリート構造物」スライドp.15参照)
5	2023年 4月20日	炭素鋼配管に対して設備改善を行う計画があれば、優先度を含めて今後説明すること。	個別事象の審査会合にて説明。 (審査会合資料「耐震・耐津波安全性評価」スライドp.29参照)
6	2023年 4月20日	「第4回監視試験の実実施計画を検討する」の記載について、第4回試験の具体的な計画と本方針の位置付けを説明すること。	個別事象の審査会合にて説明。 (審査会合資料「中性子照射脆化」スライドp.13参照)

1. コメント内容

最新知見の収集・反映プロセスに関して、情報をどのように集めて評価し、インプットしているのかプロセスを教えてください。

2. 回 答

玄海3号炉の高経年化技術評価を実施するにあたっては、以下の通り、それぞれの期間ごとに国内外の運転経験及び最新知見を収集し、各々の高経年化技術評価への反映要否を判断した上で、必要に応じて反映を実施した。



- ① 2015年3月末までの運転経験及び最新知見については、川内2号炉30年目高経年化技術評価時に、運転経験及び最新知見の収集・整理を実施しており、玄海3号炉のインプットとして活用した。
- ② 2015年4月から2020年3月までの運転経験及び最新知見について新たにスクリーニングを実施した。
- ③ 2020年4月以降の運転経験及び最新知見についても、適宜反映を実施している。